

しなののうた

漆黒の闇に冴え冴え冬の月
社殿の上にぽっかり浮かぶ



杉田小百合

しなののうた

ぱちぱちと燃える篝火あかあかと肅肅上暗き石段

杉田小百合



しなののうた

大晦日親族揃いて酒肴
達者で過ごし笑顔溢れる



杉田小百合

しなののうた

三十日蕎麦食べて
寿ぐ健やかを
除夜の鐘聞く
厳かに聞く

杉田小百合



しなののうた

平穩を願いて向かう初日記わが道目指す百歳時代



杉田小百合